

各地域におけるフルーツ・ステーションの創出とネットワーク化の 進捗状況について

1 直近の活動実績（県内事例調査及び意見交換）

日 時 令和6年1月30日（火）

調 査 先 県農業総合研究センター食品加工開発部及び園芸農業研究所、
株式会社やまがたさくらんぼファーム、株式会社東根農産センター

参 加 者 23名（内訳：市町村2名、事業者等21名（生産者、道の駅など））

調 査 内 容 フルーツ活用の幅を広げるため、加工食品の支援体制等を学ぶととも
に、会員同士のつながりの形成・強化のため、6次産業化など多角
的な経営に取り組んでいる事例やフルーツの瞬間冷凍商品をふるさと納税の返礼品に活用している事例等を調査。

2 これまでの活動に関する会員からの主な意見

①会員間のつながりの形成・強化について

生産者と消費者がともに刺激を受ける場であり、継続的な開催を望む声がある。

- ・プラットフォームは、生産者と消費者がどちらも集える刺激の場になると感じている。
- ・県内生産者にも素晴らしい起業家や取組みがあることを知り、もっと話を聞きたいと思った。

②活動を通して発見したこと、取り入れたいことについて

視察・セミナー等を通して、すぐに活用できる試みや6次産業化の取組みへのハードルが下がったと感じた参加者が多い。

- ・四季の移ろいや土地の匂いなど消費者の五感を刺激するような仕掛けを直売所等に導入したい。
- ・加工について相談ができる魅力的な環境があることがわかった。
- ・セミナーで紹介された発信力のある人をターゲットにした取組みは、すぐにどの事業者でも取り組むことができるものだ。

③フルーツ・ステーションの創出及びネットワーク化について

情報発信の効果を高めるためには、県を挙げて取り組むことが不可欠であり、さらに県が市町村や事業者を巻き込んでいくことが必要である。

- ・各事業者や自治体で情報発信しているが効果が出ていないので、効果を高めるという点で良い取組みになる。
- ・民間事業者が関わりやすくなるようにメリットを明確にする必要がある。
- ・フルーツ・ステーションが各地域に設置されることや、それぞれの役割分担を明らかにして進めていくことが明確で良い。
- ・盛り上げていくために各市町村の参加が不可欠だが、参加へのばらつきが懸念される。

以上